

町の文化遺産を未来へ残すために

唐古・鍵遺跡を知る



日本の弥生時代を代表する環濠集落遺跡である唐古・鍵遺跡。この遺跡を総合的に支援するボランティア組織「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」があります。

今月号では、この会の活動内容や平成30年に開園予定の（仮称）唐古・鍵遺跡史跡公園の整備状況も踏まえ、今一度、唐古・鍵遺跡の魅力を紹介します。

日本を代表する環濠集落遺跡

唐古・鍵遺跡は、田原本町北部の唐古から鍵領の水田に広がる環濠集落遺跡で、水田下約50センチに埋もれ、その面積は約42万平方メートル（甲子園球場約10個分）もあります。この集落は、紀元前4～5世紀に、稲作技術を携え、瀬戸内海から河内を経て大和川をさかのぼり、唐古から鍵の大地を切り拓いた人々の集落です。また、奈良県では最も古く、その後紀元3世紀までの長期にわたって栄えた中核的な集落です。

この集落は、奈良盆地の低地に立地するため、洪水などの災害への備えと、敵からの防御や水運としての役目を兼ねて、集落の周りに強固な環濠が5～6条も掘削されました。環濠の内部では、床面積が畳50畳分もある大型建物跡2棟や高床倉庫、竪穴住居、200基以上の井戸などが見つかっており、最盛期には最低でも500人以上（最も多く推定す

る研究者では1000人）の人々が暮らしていたと考えられています。

この集落の特徴は、単なる農村でなく、さまざまな「ものづくり」をしていることです。日常的な土器、鍬や鋤などの木製農具、狩猟・戦闘用の石鏃や石剣などの石器、釣針や縫針などの骨角製品、機織り、わらやかご細工、祭祀用の銅鐸や銅戈などの青銅器などあらゆるものの原材料・製作途中品・製品が出土し、交通の要所に立地することから、それらの物流センターとしての機能をもつ集落であったと考えられます。

また、弥生時代では例のないヒスイ大形勾玉や楼閣絵画土器などが出土したことから、この集落が「富と権力」を有する弥生時代最大級の遺跡であることは間違いありません。

現在まで遺跡が守られてきたことは珍しいことで、唐古と鍵の人たちが水田として営んできたおかげです。そして、本町が全国に向けて誇れる国民的財産のひとつです。

文化財保存課 ☎ 32・4404



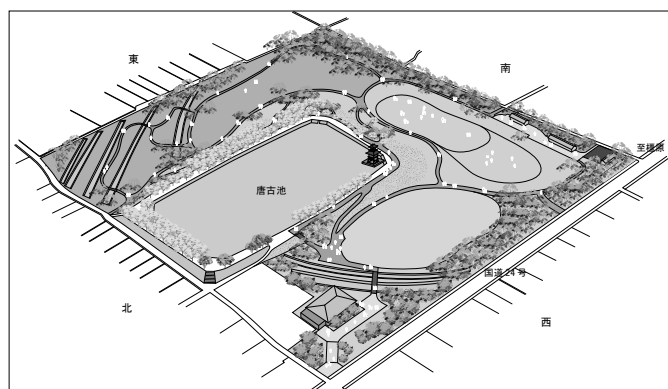
▲工事が進む唐古・鍵遺跡

(仮称) 唐古・鍵遺跡史跡公園
の整備を進めています

平成11年の国史跡の指定を受け、町では史跡の保存と公園整備のために史跡地の公有化を行ってきました。そして、公有化のめどがついた平成21年からは、公園化に向けた盛土造成工事を進めてきました。

唐古・鍵遺跡史跡公園は、弥生時代の「風景」の再現と「出来事」を体験できる場となることを目指しています。

これまでの発掘調査の成果に基づき、公園内にはムラを囲んでいた環濠(大溝)を復元したり、当時の植



▲(仮称) 唐古・鍵遺跡史跡公園の完成予想図

生を再現したりします。

公園入口付近の遺構展示館では、発掘調査で見つかった大型建物跡の発掘状況を型取りした実寸模型や柱を展示します。

また、唐古池南側には、弥生時代のくらしの体験やイベントができる広場を設けます。

今年度は、唐古池東側の復元環濠など本格的な公園整備工事に着手します。

公園が皆さんにとって歴史や自然を学び、憩いの場となるとともに、町の新たな観光の拠点となるよう、平成30年の開園を目指しています。

唐古・鍵考古学ミュージアムを
紹介

●第1室

環濠外部をイメージし、ムラ周辺の環境と生業活動、周辺地域との交流や戦い、死やカミへのいのりをテーマとしています。

●第2室

第2室では、土器・木器・青銅器・石器や機織りなど、弥生時代の手工業生産をテーマとしています。ムラの中をイメージした映像を大型スクリーンで上映しています。

●第3室

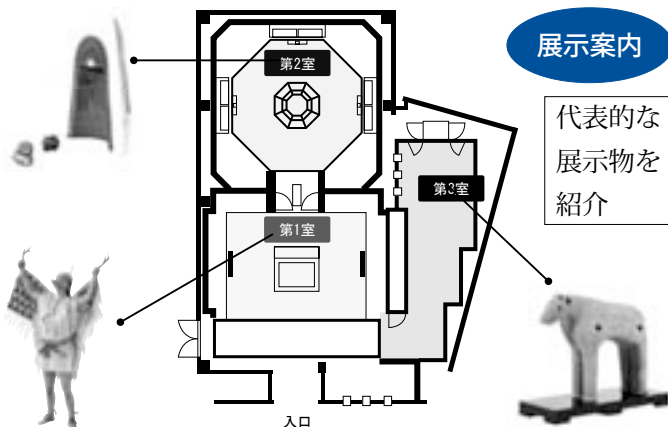
田原本の約1万年にわたる歴史を、考古資料を通じて概観します。国の重要文化財「牛形埴輪」など、特に古墳時代の埴輪には優品が多くみられます。



▲唐古・鍵考古学ミュージアム

展示案内

代表的な
展示物を
紹介



8月中は観覧無料です

家庭での節電対策として「唐古・鍵考古学ミュージアム」をご利用ください。この機会に郷土の文化財を知る機会にしてください。

※団体でこ来館の際は、事前にミュージアムへご連絡ください。

期間 8月1日(金)～31日(日)

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

※月曜日は休館

問 唐古・鍵考古学ミュージアム
(青垣生涯学習センター2階) ☎
34・7100

「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」との連携

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会とは？

平成16年4月10日に「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称「唐古・鍵支援隊」）が設立されました。

この唐古・鍵支援隊は、唐古・鍵遺跡の保存と活用を通じて、地域社会に貢献することを目的とし、自発的な意志によって活動を行っています。

また、次の活動を通じて、唐古・鍵遺跡の歴史や文化などに理解と愛着を深めています。



▲復元した土器を使った赤米炊飯



▲火熾し体験

主な活動内容

●小学校の総合的な学習の支援

この取り組みは、小学6年生の総合的な学習の時間に地域の歴史を体験を通して学んでもらいたいとの思いで始められました。内容は「唐古・鍵考古学ミュージアムの見学」「火熾し」「脱穀」「復元した土器を使った赤米炊飯」「勾玉・土器作り」「土器の野焼き」などです。文化財保存課の職員と一緒に会員が学校に出向いて体験活動をしています。

火熾しでは、児童から「火を熾すのは難しかったけど、弥生時代の人

たちの大変さを実感しました」などの感想が寄せられました。

また、毎年2月ごろ、授業で製作した作品や新聞を作ったの発表展示会を、青垣生涯学習センターで行っていて、総合的な学習の成果のまとめとしています。

歴史体験を通して、子どもたちにふるさと田原本を大切に思う心や誇りを持ってもらいたいと願っています。

●遺跡清掃活動など

年に2回、遺跡清掃活動を行っています。また、町が実施している遺跡のコスモスの栽培活動も行っている。



▲例年10月に見ごろを迎えるコスモス

ます。7月の種まきから10月の開花までの支援をしています。

●ものづくり教室

この教室は、小学校の総合的な学習の勾玉・土器作りの材料の準備、火熾し・脱穀・炊飯の道具の製作と改良・修理や補充をしたり、イラクサから糸を作ったりしています。

小学生が勾玉・土器作り、火熾し・脱穀・炊飯などを体験できるのは、唐古・鍵支援隊の協力があることです。

これからも、唐古・鍵支援隊と連携し、田原本に愛着を深める教育の充実を図っていきます。

会員を募集しています

私たちの活動は、どなたでも入っていただけます。活動に興味を持っていただける人の参加をお待ちしています。

年会費 2000円

問・申込 唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会事務局（☎

090・9257・3688 / ☑

karakokagijimukyoku@swan.ocn.ne.jp）へ電話または電子メールで。



▲ものづくり教室で土器作りの材料を準備する唐古・鍵支援隊。小学生が土器作りなどを体験できるのは唐古・鍵支援隊の協力があることです。

唐古・鍵支援隊に唐古・鍵遺跡の魅力を知りました

唐古・鍵遺跡は、日本考古学（特に弥生期）の礎を築いた重要な遺跡だと思います。

日本考古学の黎明期である昭和11・12年の唐古池発掘調査（第1次調査）で、金属器の使用、稲作の痕跡、弥生土器といった弥生時代の三大文化要素がまとまって発見されました。その発掘資料をもとに、採集生活を送っていた縄文時代と異なった「弥生時代」という社会が確定され、さらに鉄器の使用を背景に稲作を中心とした生産力の拡大によって、古墳期への移行が可能としたとする弥生史観が形成されました。

しかし、戦後一貫して持続されていた弥生史観も、現在は見直しを含め、活発な議論がなされています。その過程の中で、従来にも増して唐古・鍵遺跡の考古資料は重要な意味合いを持っています。いずれにしても、このよ

唐古・鍵遺跡の持っている価値を多くの人に知ってもらいたい



唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会（唐古・鍵支援隊）事務局

井上 知章さん

Inoue Tomoaki

うな考古学上、重要な価値を有する唐古・鍵遺跡を訪れる人は、日本考古学の原点に対する憧れをお持ちだと思っています。私たちは唐古・鍵遺跡の持っている価値を多くの人に知ってもらいたいと思います。唐古・鍵支援隊の活動を行っています。

唐古・鍵支援隊は、現在64人の会員で構成され、ものづくり教室、小学校の総合的な学習の支援、唐古・鍵考古学ミュージアムのガイドや遺跡清掃活動などに取り組んでいます。

今後は、唐古・鍵遺跡史跡公園の活用についても積極的に支援を行っていきたいと考えています。

工事前には遺跡の確認が必要です

なぜ「遺跡」だと分かるの？

田原本町には唐古・鍵遺跡の他にも数多くの遺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）があり、平成26年6月現在で、約170カ所の遺跡が確認されています。

町では、遺跡は水田の下約50センチに存在していますが、田の耕起などによって土器片が地表に散布することがあります。このような場合、地表の土器を確認することで遺跡の範囲や時代を推定することができます。また、工事を行った際に遺物が見つかり、新たに遺跡であると判明することがあります。その他に、小字名や地割りなどにより遺跡の存在を推定することもあります。

遺跡は失われた歴史を明らかにするための大切な財産です。

工事前には遺跡の確認を！

1 町内で工事をする前に

個人・共同住宅などの建築工事・造成などの土木工事を行う前に、予定地が遺跡内かご確認ください。

●奈良県のウェブサイト「奈良県遺跡地図WEB」で確認。

※遺跡範囲内にあたるか不明な場合や近接する場合は、必ず町文化財保存課へお問い合わせください。

●町文化財保存課へ直接・電話・FAXなどで確認。

※町文化財保存課へお問い合わせの場合は、予定地の地図をご用意ください。

2 遺跡内の場合は、届出を！

●遺跡内の場合

工事着手60日前までに左記書類を各3部提出してください。

①埋蔵文化財発掘届出書（様式は町文化財保存課にあります。または、県ウェブサイトでダウンロードしてください）

②位置図（縮尺2500分の1程度）

③平面図（建築配置図など）

④設計図（基礎伏図など）

⑤土地所有者の承諾書（届出者と土地所有者が異なる場合）

●周知の遺跡外で、開発面積が一万平方メートルを超える場合

遺跡があるかどうかを確認しますので「遺跡有無確認踏査願」を提出してください。

3 届出後は？

県教育委員会が審査し、左記の判断をします。

●慎重工事↓慎重に工事をし、遺物などが出土した場合は速やかに町文化財保存課に連絡してください。

●工事立会↓町文化財保存課職員が、掘削工事時に立ち会います。

●発掘調査↓県・町文化財保存課と申請者の間で協議し、工事前に調査を実施します。調査後工事に着手していただきます。（調査の際特に重要な発見があったときは、遺構の保存のために再度協議する場合があります）

※出土遺物は県から文化財の認定を受け、整理作業を行います。その後、町が保管し、活用します。

※費用について

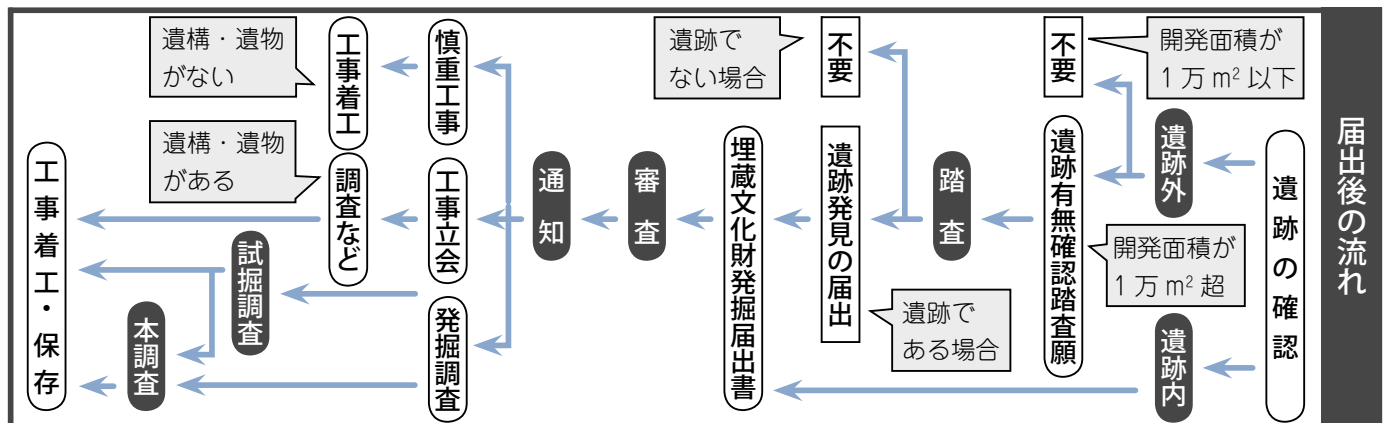
●非営利の場合（個人住宅など）
：公費で負担

●営利的な場合（店舗、宅地分譲など）
：事業者負担

新たな遺跡を発見したら：

工事中に、遺跡や遺物を発見した場合、工事を中断し、現状を変えないよう注意してすぐに町文化財保存課へ連絡してください。

●提出先 町文化財保存課（☎32・4404／FAX34・0522）





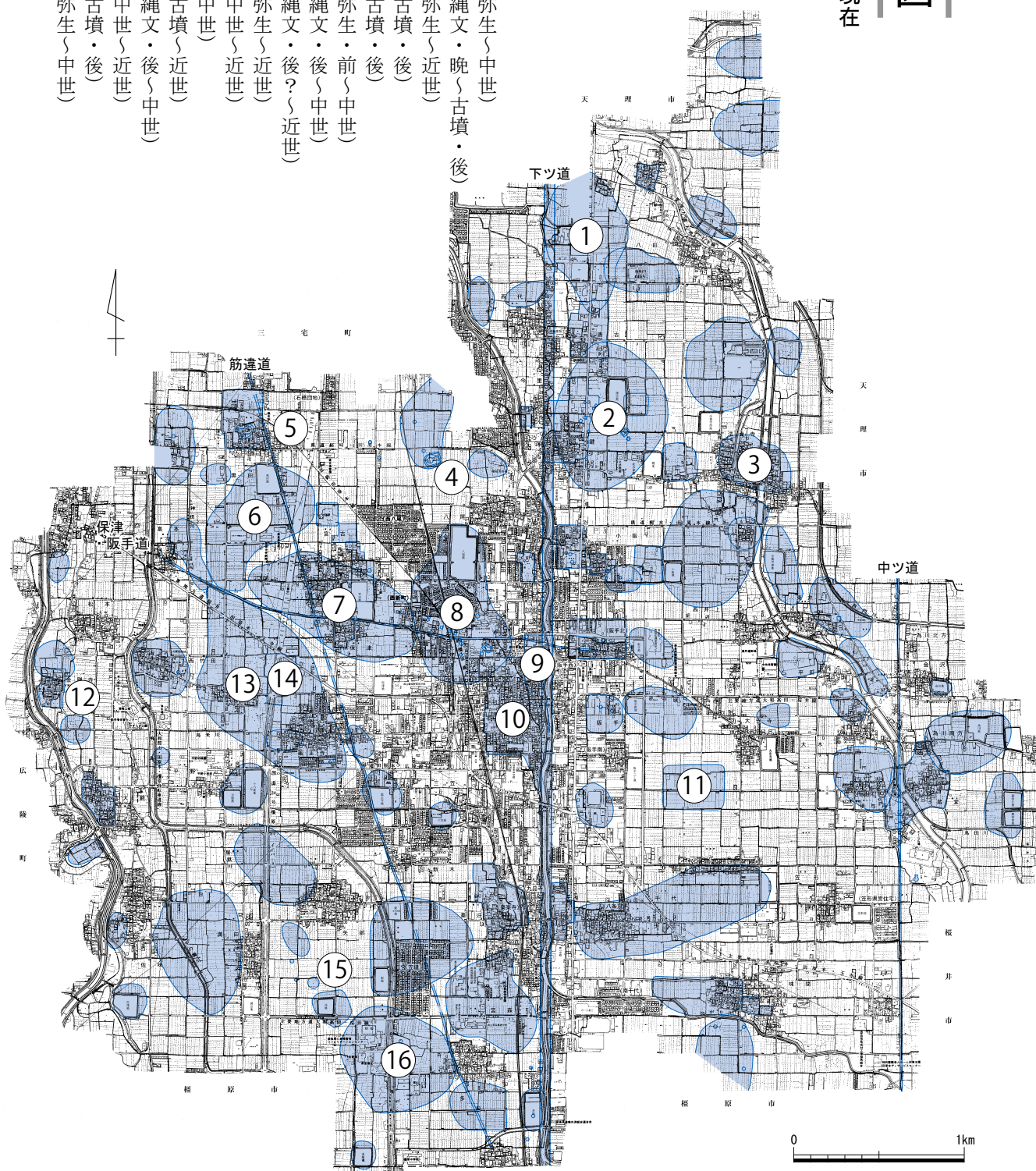
田原本町の

遺跡地図

平成26年6月現在

■ 町内の主な遺跡

- | | |
|-------------|-------------|
| ① 清水風遺跡 | (弥生～中世) |
| ② 唐古・鍵遺跡 | (縄文・晩～古墳・後) |
| ③ 法貴寺遺跡 | (弥生～近世) |
| ④ 笹鉾山1号墳 | (古墳・後) |
| ⑤ 黒田大塚古墳 | (古墳・後) |
| ⑥ 宮古北遺跡 | (弥生・前～中世) |
| ⑦ 保津・宮古遺跡 | (縄文・後～中世) |
| ⑧ 羽子田遺跡 | (縄文・後?～近世) |
| ⑨ 平野氏陣屋跡 | (弥生～近世) |
| ⑩ 寺内町遺跡 | (中世～近世) |
| ⑪ 柿ノ森遺跡 | (中世) |
| ⑫ 金剛寺遺跡 | (古墳～近世) |
| ⑬ 十六面・薬王寺遺跡 | (縄文・後～中世) |
| ⑭ 保津氏居館推定地 | (中世～近世) |
| ⑮ 団栗山古墳 | (古墳・後) |
| ⑯ 多遺跡 | (弥生～中世) |



遺跡の範囲内に該当すると思われる場合や、詳細な範囲を確認したい場合は、町文化財保存課へお問い合わせ下さい。
また、県文化財保存課のHP (http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-16763.htm) でも確認できます。